

市町村職員自主研究グループ支援事業

プロスポーツキャンプ時期における
経済活性化を目的とした、
日帰り観光から宿泊観光への転換に向けた
宿泊施設等の確保や持続可能な交通網の
整備に関する研究

NICHINAN INNOVATION

研究テーマ:プロスポーツキャンプ時期における経済活性化を目的とした、日帰り観光から宿泊観光への転換に向けた宿泊施設等の確保や持続可能な交通網の整備に関する研究

1.グループの概要

「NICHINAN INNOVATION」は、「次世代職員の政策形成研修」に参加した日南市職員であり、財政、子育て、病院、土木など幅広い部署に所属するメンバーで構成している。

本研修を通して、日南市が保有する豊かな「山幸」「海幸」「人幸」の資源に対し、プロ野球キャンプという強力なコンテンツが加わることで、年間を通じた観光振興の中核となるのではという考えに至り、通常業務とかけ離れた分野での企画立案に取り組んでいる。

2.研究の目的、ねらい

当市の現状として、プロ野球キャンプ期間中には例年延べ約6万人のファンが全国から訪れる一方で、観光客の8割が「日帰り客」となっており、深刻な宿泊施設不足に直面している。その結果、1泊当たりの損失経済効果は1人につき約17,000円にも上り、年間を通じた地域経済への貢献という「チャンス」を逃している。

この「泊まりたくても泊まれない」宿泊難民の解消と、それによる地域消費の最大化を実現することが本グループの目的であり、その達成のため、以下の2つの目標を掲げ、具体的かつ実現可能性の高い施策を立案し、政策提言を行うこととした。

(1) 宿泊キャパシティの増強

既存ストック(公営住宅、公共駐車場)を活用した即効性のある宿泊供給策を確立し、市外への消費流出を食い止める。

(2) 魅力発信のコミュニティ拡大

「キャンプシーズンのみ当市を訪れる」現状を変革するため、ファンと地域のつながりを深める交流機会を創出し、リピーターの創出と年間を通じた観光客誘致のきっかけとする。

本研究で提案する施策は、いずれも最小限の初期投資で検証可能であり、速やかに地域経済へのプラス効果を生み出すことを目指している。

3.活動内容

本研究では、宿泊施設の課題解決策の検討とファン交流機会の創出活動を中心に実施した。

(1) 宿泊施設キャパシティ増強に関する調査・企画立案

市内の市営住宅は約1,700戸存在するが、その約3割が空き部屋となっており、募集を出しても入居者が現れない状況にある。一方で、老朽化した住宅の解体には多額の費用を要するため、維持・管理が行政課題となっている。これらの未利用資産を「宿泊リソース」として再定義し、球団関係者やメ

ディア向けに提供することで、地域課題の解決と受入環境の強化を同時に図ることが可能となる。

①市営住宅活用手法の比較検討

財産マネジメント課住宅係との協議に基づき、以下の2つの手法を比較検討した。

ア 地域対応活用計画の策定(目的外使用)

1つ目は、「地域対応活用計画」の策定による目的外使用である。これは、既に実績のある「高校生寮」や「外国人技能実習生の居住」と同様のスキームにより、国の認可を得て空き部屋を特定目的で提供するもので、この手法の最大の特徴は、旅館業法の許可が不要となる点にあり、簡易な誓約書と事後清掃という簡便なオペレーションでの運用が可能である。ただし、本市が直接運営に携わるため、予約管理等の事務負担が増大する点や、宿泊目的での国への申請理由の構築が重要な鍵となる。

イ 公営住宅の用途廃止(普通財産化)

2つ目は、「用途廃止」による普通財産化である。住宅としての用途を廃止し、旅館組合等の第三者へ一括して貸し出す手法である。これにより、民間のノウハウを生かした持続可能な運営が可能となるが、築年数の経過に伴う改修費用の確保や4階建て以上の建物には制約があるといった課題も存在する。

ウ 宿泊施設の対象候補地と今後の展望

具体的な候補地としては、天福球場に近い「瀬西団地」や「松原団地」、南郷スタジアム近隣の「上中村団地」、「栄松B団地」が挙げられる。いずれも入居需要が低迷しており、宿泊施設としての活用は、本市が抱える空き家対策や解体コストの課題解決にも寄与するといった「住宅部局と財政部局の横断的なメリット」があることが確認された。

今後の方向性として、まずは「地域対応活用計画」に基づき、報道関係者等を対象とした期間限定の提供から着手し、利用実績を積み上げる。その上で、将来的にニーズの高い物件については用途廃止を伴う本格的な改修を行い、恒久的なキャンプ連動型宿泊施設へと段階的に移行するスキームの構築を目指す。

【油津地区】



【南郷地区】



候補地としてあげた公営住宅の現状

②RVパークの導入検討

プロ野球キャンプシーズンにおける「市外への消費流出」の課題を解決する手法の1つとして、自動車を利用した旅行者をターゲットとした車中泊需要に応えるRVパークの試験導入を検討する

ために福岡県宗像市と糸島市、大分県別府市を視察した。

ア 先進地事例調査の結果

宗像市では、コロナ禍当時のキャンピングカー人気の高まりから、「キャンピングカーの聖地化」を目指し、RVパークの整備に取り組んでおり、今回の視察では、「道の駅むなかた」におけるRVパーク導入の経緯や課題、導入後の効果について説明を受けた。なかでも、導入に係る設備条件や整備費用等については、実際に当市で導入を検討するにあたって大変有意義な情報を得ることができた。

また、糸島市の「RVパーク smart 糸島ファームハウスUOVO」と別府市の「RVパーク亀川マリナーテラス」は、「道の駅むなかた」と比較して簡易な施設ではあったものの、ある程度稼働の実績があることから小規模導入の可能性も確認できた。



道の駅「むなかた」駐車スペース (宗像市)



バーベキュー設備 (宗像市)



担当者による説明 (宗像市)



RVパーク smart 糸島ファームハウスUOVO (糸島市)



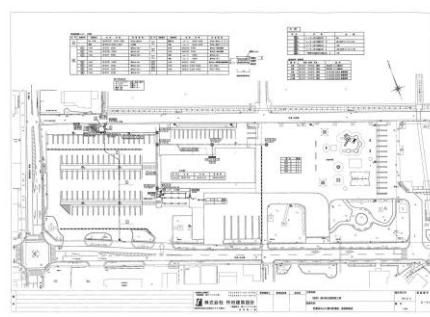
RVパーク亀川マリナーテラス (別府市)

【RVパークの条件】

1. ゆったりとした駐車スペース (幅4m×縦7m)
2. 24時間利用が可能なトイレ
3. 100vの電源が使用可能 (1台20A以上推奨)
4. 入浴施設が近隣にあること (車で15分圏内)
5. ごみ処理が可能
6. 入退場制限を緩やかに (いつでも出入り可能)
7. 看板の設置 (ロゴは日本RV協会が提供)
8. 複数日の利用が可能

イ RVパークの対象候補地と今後の展望

実際に導入することを想定し、訪れる観光客の利便性や導入コストを考慮し、候補地を検討した。当市には、「なんごう」、「きたごう」、「酒谷」と3つの道の駅があるが、電源工事や駐車スペースの整備といったコストが抑えられることやRVパークの要件の一つである入浴施設が近隣 (車で15分圏内) にあることを考慮し、道の駅「きたごう」が最善であると判断した。さらに、道の駅「きたごう」には、レストランや食事スペースがあり、弁当や食料品も販売しているため、利用者へのサービスも充実していることから、候補地として最適と考えられる。



道の駅「きたごう」RVパーク建設予定地

(2) 魅力発信・コミュニティ拡大に関する活動

① ファン交流イベント企画の立案

プロ野球キャンプを目的に当市を訪れる観光客が、キャンプシーズン以外の時期には訪れる機会が少ないという現状を打破するため、ファンと地域のつながりを創出し、コミュニティを形成することで、キャンプシーズン以外にも来訪を促すことを目的とした交流イベントの企画立案を行った。

本イベントは「BASEBALL FANS GATHERING 2027」と題し、プロ野球春季キャンプ期間中の令和9年2月13日(土)に、キャンプ地近くの施設である「油津YOTTEN(よってん)」を会場として実施することを想定した。目標参加者数は30人程度とし、イベントの総予算は142,500円と試算した。

このイベントは、地元ファンと市外からのファンが、プロ野球キャンプ情報に留まらず、当市の観光や地元ならではの情報を交換し、交流を促進することを狙いとしている。これにより、参加者の当市に対する愛着を深め、リピーター創出のきっかけとすることを目指す。



【意見交換の様子】

イベントの予算確保については、参加費のほか、地元企業からの協賛金を募ることを想定している。協賛いただいた企業には交流会場内にブースを設ける機会を提供し、当市の特産品等の周知と消費促進にもつなげる計画である。

また、開催日をキャンプ開催前日、又は最終日に設定することで、参加者の延泊を促し、さらなる地域経済への消費拡大につながる可能性も視野に入れている。本イベントが成功し、キャンプ期間中の定番イベントとして定着した際には、野球関連のゲストを招待したトークイベントや参加者限定の企画など、さらなる魅力的な企画として展開していくことを検討している。

【イベント企画書抜粋】

02.13.2027

02 イベントの内容

開催日	2027年2月13日(土)	イベントスケジュール	16:30 - 17:00 受付
場所	油津YOTTEN	17:00 - 17:10	開会・主催者挨拶
対象者	球団ファン(年齢・性別・居住地不問)	17:10 - 17:40	アイスブレイク・自己紹介
定員	30名	17:40 - 19:00	交流タイム(グループトーク)
参加費	・大人: 3,500円 ・子供(6歳以上~12歳未満): 1,000円 ・子供(6歳未満): 無料	19:00 - 20:00	球団クイズ(賞品あり)
		20:00 - 20:20	次回に向けた意見交換・雑談
		20:20 - 20:30	閉会

05 イベントの目的と期待される効果

目的	期待される効果
<p>キャンプ観戦をより楽しくファン同士のつながりを生むことで、様々な情報を交換し、違う視点での楽しみ方ができる</p> <p>より愛される日南市に 球団キャンプ地でのイベントを通じて、本市の食や文化に触れ、愛着を高める</p>	<p>地域の賑わい創出・活性化 ファン同士の交流促進によるリピート来訪を促すことで地域全体を盛り上げる</p> <p>コミュニティの形成 全国各地に住むファン同士がSNS等を通じて交流できる場を設けることで、自主的に継続して交流できるコミュニティができる</p>

08 予算と費用

イベントの予算概要		収入と支出の見積み内訳 (単位: 円)	
総予算	142,500円	収入の見込み	支出の見込み
収入予想	142,500円	50,000	50,000
支出予想	142,000円	5,000	5,000
		59,000	59,000
		92,500	92,500

収入の内訳: 50,000 (総額)

支出の内訳: 5,000 (公営施設費) + 5,000 (消耗品) + 2,000 (会場使用料) = 12,000

収入の内訳: 50,000 (総額)

支出の内訳: 5,000 (公営施設費) + 5,000 (消耗品) + 2,000 (会場使用料) = 12,000

②情報発信施策の検討

日南市観光協会の観光振興係長で、広島東洋カープ油津協会のホームページや各種SNSでの情報発信を担当している天重孝文氏と意見交換を行った。

本研究では、当初「プロ野球キャンプ情報に特化した特設サイトの開設やアプリ開発」を提案として挙げていた。しかし、研究を進める中で、観光協会が開設しているホームページの中に情報源が集約されていることを確認したことから、新たな情報源を多数立ち上げるのではなく、既に存在する情報源を最大限に生かす方法はないかと考えた。

また、これらの情報サイトが存在するにもかかわらず、球団ファンにあまり知られていないという現状もあった。

意見交換を進める中で、私たちが検討していた内容と天重氏が既に検討を進めている内容には多くの共通点があり、改善に向けた動きが始まっていることを知ることができた。実際にキャンプに訪れる県外客から「情報収集がしづらい」という声もあったが、天重氏も同様の課題意識を持ち、試行錯誤されていることを知り、今後の改善に期待ができると感じた。

しかし、利用者の理想と、実際に運営する側の制約や現状との間には乖離があることも認識した。このことから、理想的な情報源を構築する事の難しさも実感した。

また、実際にプロ野球キャンプを訪れた観光客から「観光マップがあれば便利」との意見が寄せられた。これを受け、油津料飲組合と意見交換会を開催し、キャンプ場付近の飲食店情報を発信する観光マップの作成を組合加入事業者に提案した。

結果として、市内28店舗の情報を掲載した「日南へようこそ」を作成した。さらに、観光情報の一元化を図る観点から、各情報サイトの二次元コードやバスの時刻表も掲載し、観光客向けの情報を集約したマップとして作成した。



観光マップ「日南へようこそ」

③Google フォームを活用した観光に関するアンケート調査

プロ野球キャンプ期間中、当市及び観光協会において、観光客の客層や満足度に関する包括的なアンケート調査は実施されていない。このことから、当該期間に当市を訪れる観光客を対象とした Google フォームを活用したアンケート調査の実施を計画した。

アンケートの目的は、観光客が当市の観光について何に満足し、どのような課題を感じているかを把握することにある。これにより、観光客が求める情報や期待するニーズを明らかにし、今後の観光施策の立案や改善に役立てることを目指す。

アンケートは、回答者の負担を軽減するため、設問は主に選択式で構成した。設問項目は、観光客の属性(年齢層、居住地、同行者)、行動(宿泊地、滞在期間、当市に関する情報収集源)、そして観光地としての満足度や改善点に関する内容を設定している。

調査実施にあたっては、プロ野球キャンプ期間中に球場内に二次元コードを設置するほか、関係機関のウェブサイト等を通じた広報活動も検討している。

4.研究の成果、効果

本研究は、当市のプロ野球キャンプにおける課題解決に向けた具体的かつ実行性の高い2つの施策群(宿泊増強とコミュニティ拡大)を提言できたという点で、顕著な成果を上げた。

(1) 宿泊キャパシティ増強施策による経済的効果

市営住宅の特定目的短期賃貸活用及びRVパークの試験導入は、報道関係者やファンといった市外からの来訪者の宿泊キャパシティを直接的に拡大する。これにより、約1万人と推計される「泊まりたくても泊まれない」潜在層のニーズに応えることが可能となり、彼らの夜間消費を市内に誘導し、市外への消費流出を抑制する。

特にRVパークの導入は、宗像市の事例から見られるように、既存の公共インフラを最大限に活用することで初期投資を抑えつつ、車中泊需要という新たな観光消費の取り込みと、不適切な車中泊の防止による観光地としてのイメージ向上及び安全性の確保という、多角的な効果を期待できる。

(2) 魅力発信・コミュニティ拡大施策による波及効果

ファン交流イベントの実施については、本研究期間が春季キャンプ期間外であったため、実際に開催には至っていない。しかしながら、次期キャンプ期間に向けて具体的な企画の立案を進めることができた。

また、市内で宿泊事業等を展開している「株式会社ことろど」代表取締役の田鹿倫基氏にも企画書(案)を確認いただき、貴重なアドバイスを得ることができた。田鹿氏からは、球団関係者等をゲストとして迎えるといった魅力的な提案や、初回は行政主体で実施するイベントを次回以降は参加者主体で自走可能なイベントとして確立させるための意見も得られた。これらの助言は、今後実際にイベントを開催する際に、より魅力的な内容となるよう検討を進める上で、大変有益な機会であった。

観光やキャンプ情報の情報発信に関しては、期間内において、情報の統合や観光協会との具体的な連携強化までには至らなかったが、情報発信における共通の課題や問題意識を相互に確認できたことは大きな成果である。

また、研究グループとして情報発信マップを作成するにあたり、地域内の飲食店から当該施策に対して一定の理解があることが判明した。

このことから、今後も観光協会や地域の事業者との意見交換や検討会を継続的に設けていくことで、より分かりやすく、リアルタイムな情報発信の強化・改善が期待される。

5.まとめ

本研究は、当市におけるプロ野球キャンプの経済効果を最大化するため、現状の課題を「宿泊施設の

量的不足」と「ファンとの質的なつながり不足」の2点に集約し、その解決に向けた具体的な提言を行った。提案した施策は、即効性のある短期的な施策（市営住宅の短期活用、RVパーク試験導入）と、将来的な地域資源化を見据えた施策（恒久的な宿泊施設への改修、ファン交流会の定例化）の両面をカバーしており、多角的に検討できる機会となった。

今回、政策提言を行うにあたって、政策目的の設定や実行するための手法や課題の洗い出しを行ったことは、今後の業務における企画立案力の向上に資するものであった。

また、部署や業務の垣根を超えた多様な背景を持つメンバーで、1つの課題に取り組むことにより、メンバー同士が互いの考え方に刺激を受けるとともに、通常業務では触れることのない、地域の新たな発見や気づきを得られた。今回の研究で培った考え方やノウハウを、普段の業務でも実践していきたいと考える。